

序

当研究所恒例のひとつとして教育論文集の刊行を企画しましたところ、小中学校の先生方から優れた原稿をお寄せいただきました。

本年度の論説は一編ですが、英語指導助手のベス・マイヤーズ先生に投稿していただきました。英語教育をモンスターに見たて、その指導のあり方について私見を述べたものであり、外国人教師と協同授業をする英語教師に多くの示唆を与えてくれます。

実践記録については、国語・数学・体育・家庭・英語など、それぞれ教科の特色や児童・生徒が実際に学んでいる姿に視点をあてた実践研究であり、いずれも新しい研究の方向がうかがえます。

そのひとつは、小学校低学年国語科における説明的文章の読解指導であり、児童が楽しみながら学習に取り組むために、教材解釈や教材分析を通して読みを深めていくことに重点を置いた研究であります。

数学科では、自ら進んで学習に取り組む生徒の育成をめざしたシート学習の研究であり、中教研数学部会の研究推進委員による共同実践をまとめたものです。

体育科では、遊ぶことや運動することが大好きな本来の子供の姿の回復をめざして、子供の遊びやレクリエーションからヒントを得て教材化する研究であります。

家庭科では、生徒が意欲的・主体的に学習できるような題材や、指導過程の構成の重要性を示した実践研究であります。

英語科では、外国人教師との協同授業のあり方を学習理論に基づいて実践例を示したもので、外国人の特性を授業の中でどのように生かすべきか示していただきました。

これらの論説や実践記録は、いずれも児童・生徒の自主的な学習への取り組みをめざした試みであり、読む者の教育観を深める契機となるにちがひありません。各学校におかれましては、ここに示された貴重な論説や記録を日々の教育実践に十分に生かされ、本市の教育の発展に寄与されますことを期待します。

終わりに、原稿をお寄せくださいました先生方にお礼を申し上げますとともに、みなさまのご活躍を祈念して序といたします。

昭和63年3月

足利市立教育研究所長 赤坂光三